

平成24年行政事業レビューシート (環境省)

事業名	臭素系ダイオキシン類実態解明調査		担当部局庁	水・大気環境局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成14年度～		担当課室	総務課ダイオキシン対策室		ダイオキシン対策室長 加藤 庸之		
会計区分	一般会計		施策名	3-5 ダイオキシン類・農業対策				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	ダイオキシン類対策特別措置法附則第2条		関係する計画、通知等	残留性有機汚染物質(POPs)条約国内実施計画				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	附則第2条の規定に基づき、臭素系ダイオキシン類の様々な排出源からの排出実態を把握するための調査を実施し、国内の排出インベントリの作成に資する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	有識者からなる検討会を設置し、助言を受けながら、排出源の可能性のある国内の施設からの臭素系ダイオキシン類等の排出実態把握調査等を実施。あわせて、塩素系ダイオキシン類や発生原因と推定される物質(たとえば臭素系難燃剤)の環境濃度、製品中の濃度等の把握や、関連する情報の収集をも実施。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求		
	予算の状況	当初予算	49	48	39	38		
		補正予算	0	0	0	0		
		繰越し等	0	0	0	0		
		計	49	48	39	38	32	
	執行額		40	29	39			
執行率(%)		82%	60%	100%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
	臭素系ダイオキシン類排出実態データの充実		成果実績	施設	+3	+2	+10	
		達成度	%	100	66.7	100		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	対象施設からの排出データ等を実測調査し、関連データとともにデータベース化(年度内に5施設分のデータを追加)		活動実績 (当初見込み)	回/年	3	2	10	—
					3	(3)	(10)	(5)
単位当たりコスト	(3900万円/単位)		算出根拠	施設調査に要した総費用/インベントリへ新規データが追加された施設カテゴリ追加数				
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	環境保全調査費	38	32	年次計画を見直すとともに、要求額の縮減を図ったため。				
	計	38	32					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	昨年度の行政レビューにおいても、臭素系ダイオキシン類の実態把握の必要性については、広く認められた。事業の加速化は求められている。また、専門性が高いため、国でしか実施できないと考えられる。(不用額は僅少)
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	臭素系ダイオキシン類の測定は法定義務でないため、通常の市場ニーズがないこと及び特殊な分析方法を要し、高度な分析能力が必要とされることから、本業務に対応できる業者数が非常に限られる。このため、分析費用等の効率化が進みにくい環境にある。
	△	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	データを着実に蓄積しており、実効性は高いが、データの収集範囲についてはさらに、検討の余地がある。達成度、実績とも問題ない。成果については、今後のPOPs関連の議論や研究等にも活用が期待される。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	
	－	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>H23年度の行政レビューにおける評価や、それを踏まえて開催したワークショップにおける有識者による討議の結果等を踏まえ、一般的には現状の環境リスクはそう大きくないと考えられるが、局所的にリスクが高いと指摘される地域もあるため、なお、調査を充実させ、臭素系ダイオキシン類の環境動態等の解析等も行うことが重要である。 また、暫定排出インベントリーについても、今後、より確実なものとしていくため、データの蓄積や、作成方法についての改善等が必要であると考えられる。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>年次計画の具体化と事業内容の重点化を図ることで、必要最小限の概算要求額とすること。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減	<p>年次計画を見直すとともに、予算額の縮減を図ることとした。(実態調査内容の見直しによる縮減)</p>		
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
<p>平成23年度の準公開行政事業レビュー対象となる。 レビューの判定は、一部改善。コメントは「環境行政における重要性と事業の継続を認めるが、調査内容及び事業計画を精査し、臭素系ダイオキシンの排出インベントリーの完成を目指すこと。」であった。 これを受け、平成23年度の調査では、調査対象施設を大幅に増加(3→10)し、情報収集のペースを加速化した。 また、本分野の有識者によるワークショップを開催し、現時点における臭素系ダイオキシン類に対するリスク認識、今後の課題等について討議、一定の総括を行った。</p>			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	093	平成23年行政事業レビュー	085

環境省
39百万円

・臭素系ダイオキシン類に係る調査の推進 等



【総合評価入札】

A.(株)ニッテクリサーチ
39百万円

・臭素系ダイオキシン類の発生源等調査
・臭素系ダイオキシン類の暫定インベントリーの推計
・有識者による関連検討会の開催運営 等

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A.(株)ニッテクリサーチ			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	臭素化ダイオキシン類等の分析(10施設分)	24			
人件費	技師	7.5			
旅費等	打ち合わせ・調査交通費等	3.4			
会議費	検討会3回開催(交通費・謝金・会場費)	1.3			
その他	文献収集、報告書作成	0.4			
一般管理費		3.7			
計		39	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)ニッテクリサーチ	臭素系ダイオキシン類実態解明調査	39	1	84.90%
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					